



第7回 能楽祭

お客様へ日頃の御礼を込めて

2018年
5月29日(火)
開演14時30分
(開場13時30分)

宝生能楽堂

主催／公益社団法人能楽協会
協力／宝生能楽堂
協力／京都烏丸三条十松屋福井 株式会社檜書店
株式会社わんや書店 有限会社もちや
株式会社皆中

舞囃子 邯鄲 廣田 幸稔
独吟 松風 前田 晴啓
仕舞 笠ノ段 辻井 八郎
一調 勧進帳 浅見 真州 柿原 崇志
狂言 杭か人か 野村又三郎 話入
能楽 小鍛冶 中村 邦生 白頭

能楽へのご支援に感謝申し上げ、
本公演限りの特別なおもてなし

- ご来場者へドリンクサービス。
- ご来場者を対象としたお楽しみ抽選会の実施。
「式能」チケット、出演者サイン入り色紙ほか素敵な景品が当たります。
- パーティ付チケットをご購入の方は、抽選会后、能楽堂ロビーにて出演能楽師と語り合えるカクテルパーティにご参加下さい。

日時／平成30年5月29日(火) 開演 14時30分(開場13時30分)
会場／宝生能楽堂 東京都文京区本郷1-5-9

入場料金	[パーティ付]		
	◆SS席 8,000円	11,000円	
[全席指定]	◆S席 7,000円	10,000円	
	◆A席 5,000円	8,000円	
	◆フェスティバルシート	2,020円	5,020円

※障害者割引あり…詳細は能楽協会(03-5925-3871)までお問合せ下さい。
※パーティ付チケットのお申込みは20歳以上の方に限らせて頂きます。
※本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。
※お受取り・お支払い方法によって、別途手数料がかかる場合がございます。

チケット取扱
平成30年2月9日(金) 午前10時より発売開始

- ◆チケットスペース 03-3234-9999 (有人対応)
- ◆カンフェティ★ 0120-240-540 (有人対応)
[平日 10:00-18:00]
- ◆チケットぴあ★ 0570-02-9999 [Pコード 482-684]
ぴあ全国各店舗 サークルK・サンクス/セブンイレブン
窓口販売のみ[火~日 10:00-17:00]
- ◆宝生能楽堂

★印:ネット販売あり

〈前売りチケット販売期間〉2月9日(金)~5月24日(木)
※チケットスペースのみ5月22日(火)までの販売となります。
※5月24日を過ぎてからのチケットのご購入については、当日券となります。
但し、販売期間にかかわらず、チケットが売り切れ次第、販売を終了させて頂きまますので予めご了承下さい。



※場内での撮影・録音・録画は固くお断り致します。
※場内での時計のアラーム、携帯電話などの電源はお切り下さいませようお願い申し上げます。
※出演者は都合により変更させて頂く場合がございますので予めご了承下さい。
※開場前のご来場につきましては、能楽堂館外にてお待ち頂くこととなりますのでご承知お下さい。



主催・問合せ／公益社団法人能楽協会
TEL 03-5925-3871
<http://www.nohgaku.or.jp/>

能楽協会では、チケットの販売を致しておりません為、上記取扱所にてお求め下さいますようお願い申し上げます。

《能楽フェスティバル2017-2020》関連事業

未来への能楽普及振興を目指し、1964年開催の「オリンピック能楽祭」を再び!

第七回 能楽祭

御挨拶

公益社団法人能楽協会
理事長 観世鍔之丞



中国・邯鄲の里が舞台の壮大な物語。人生に悩む若者・盧生は、旅の途中、宿の主に勧められ不思議な「邯鄲の枕」で床につく。すると、夢中で盧生は王位に就き、王宮で栄華の限りを尽くす。いつしか時は過ぎ、数々の栄華が消え失せ、盧生は宿の主に起こされる。茫然と起き上がった盧生は、五十年の栄華も粟飯が炊けるまでの一睡の夢だと人生を悟り、帰ってゆく。

能楽(能と狂言)は、六五〇年余の間、絶えることなく連続と伝えられて参りました。その歴史の長さは、その時代時代の人々との繋がりやの深さでもあります。様々に姿を変え、多くの方に支持され受け継がれ、現代に生きる芸能でありたいと願っております。

戦後間もない一九四五年秋に設立された私ども能楽協会は、能楽の振興と発展を責務として、微力ながら日々邁進しているところでございますが、皆様の御支援・御指導あってこそ目的を成しえることが出来ると存じております。

番組

解説 金子敬一郎

邯鄲

舞囃子 (金剛流)

廣田 幸絵

大鼓 原岡 一之 大鼓 大川 典良
小鼓 大倉源次郎 笛 杉 信太郎

松風

独吟 (宝生流)

前田 晴啓

地謡 田村 修
字高 竜成
種田 道一
工藤 寛

笠ノ段

仕舞 (金春流)

辻井 八郎

地謡 井上 貴覚
本田 光洋
山井 綱雄
本田 芳樹

勧進帳

一調 (観世流)

浅見 真州

柿原 崇志

杭か人か

狂言 (和泉流)

野村又三郎

アド 奥津健太郎
後見 野口 隆行

小鍛冶

シテ 中村 邦生

ワキ 宝生 欣哉

白頭

ワキツレ 野口 能弘

アイ 大藏彌太郎

後見 香川 靖嗣
金子敬一郎

大鼓 國川 純 大鼓 桜井 均
小鼓 成田 達志 笛 一噌 隆之
地謡 佐々木多門 友枝 雄人
粟谷 充雄 長島 茂
内田 成信 粟谷 明生
大島 輝久 狩野 了一

附祝言

(終演予定 十七時十分)

終演後、客席にてお楽しみ抽選会を実施

(チケットの半券が当選番号確認のために必要となりますので大切にお持ち下さい)

パーティーチケットをご購入の方は、抽選会後、能楽堂ロビーにて出演能楽師と語り合えるカクテルパーティーにご参加下さい

題字 野村 萬

邯鄲 (かんとん)

中国・邯鄲の里が舞台の壮大な物語。人生に悩む若者・盧生は、旅の途中、宿の主に勧められ不思議な「邯鄲の枕」で床につく。すると、夢中で盧生は王位に就き、王宮で栄華の限りを尽くす。いつしか時は過ぎ、数々の栄華が消え失せ、盧生は宿の主に起こされる。茫然と起き上がった盧生は、五十年の栄華も粟飯が炊けるまでの一睡の夢だと人生を悟り、帰ってゆく。

松風 (まつかぜ)

旅の僧が須磨の浦を訪れ、二人の海女に宿を借りる。僧は、松風・村雨というかつて在原行平に愛された女性たちの旧跡を吊ったことを語り、二人の海女は涙を流し、実は自分たちこそその亡霊だと告げる。松風は行平の形見の烏帽子・狩衣を身につけ、恋慕の舞を舞う。独吟では、行平の形見を見て懐かしむ場面を語る。

笠ノ段 (かさの段)

能「声刈」の一節。貧しさゆえに妻と別れ、落ちぶれて声売りとなった左衛門は、夫の行方を尋ねてやってきた妻とは知らず声売りを売る。左衛門は恥ずかしさに身を隠すが、妻の呼びかけに和歌を詠み交わすうちに心も打ちとけ、連れ立って都に帰って行く。「笠ノ段」は声売りが笠尽くしの舞を舞う場面である。

勧進帳 (かんじんちょう)

能「安宅」の一節。偽山伏となつて兄・源頼朝の追手から逃れる義経一行は、安宅の関にたどり着く。関守・富樫某は一行を怪しみ、勧進帳の読み上げを弁慶に迫る。武蔵坊弁慶は、手元の巻物を東大寺への寄進を募った勧進帳と偽り、当意即妙で読み上げ、一行は通過を許される。一調では、勧進帳を高らかに読み上げる場面となる。

杭か人か (かいかひとかうたいり)

家来の太郎冠者が、臆病なくせに方々で大言壮語を吐くという噂を聞いた主は、真偽を確かめるべく太郎冠者を呼び出し、わざと夕方に留守番を言い付け、出掛ける振りをして様子を伺う。広い屋敷に独り残された太郎冠者は、物の影や物音に怯えながら、庭の夜回りに出るが……。

小鍛冶 (こかじはくとう)

勅使・橋道成(ワキツレ)は、小鍛冶宗近(ワキ)に剣を打てとの勅命が下ったことを伝える。しかし、宗近はしかるべき相手を打つ相手がいないことを嘆き、稻荷明神に祈願に出かける。すると童子(前シテ)が現れて、剣の威徳を称え、剣を打つ準備をして待て、と告げて消える。身支度を整えた宗近が祈念をしていると、稻荷明神(後シテ)が槌を構えて現れる。稻荷明神は、相槌を勤めて見事に名剣「小狐丸」を打ちあげ、四海安穩、五穀成就を祝福し、刀剣を勅使に捧げて稻荷山に帰ってゆく。今回の小書「白頭」では、後シテが白装束という出で立ちで、狐足という特殊な足遣いを見せる。喜多流ならではの特殊演出で、見ごたえ充分の人氣曲。

◆上演形式の説明

「舞囃子」

能一曲の見せ場にあたる部分を地謡と囃子の演奏に合わせて一人ないし複数人で舞う。

「独吟」

一曲の特定部分を囃子の演奏を伴わず一人で語る。

「仕舞」

能一曲の特定部分を地謡に合わせて一人ないし複数人で舞う。

「一調」

謡い手一人と鼓一人が、能一曲の特定部分を演奏すること。謡い手、囃子方共に一定以上の技量が求められ、囃子方では重い扱いとなる。